

令和3年度茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1回第1層協議体会議録

議題	<ul style="list-style-type: none"> ・茅ヶ崎市の生活支援体制整備事業について (1) 茅ヶ崎市の生活支援体制整備事業の取組 (2) 意見交換 ・講演 (1) テーマ「住民主体の事業とは～SCと協議体の役割とは～」 (2) 質疑応答 (3) その他
日時	令和3年11月8日(月) 10時00分から12時00分まで
場所	茅ヶ崎市役所本庁舎4階 会議室5
出席者氏名 (敬称略)	<p>松井 新吾、平本 哲也、菅野 京子、海野 誠、小澤 伸一、 田島 一紀、森 森恵、坂井 修一、有元 佳子、土屋 和美、 渡邊 多茂夫、三觜 健一、澄川 篤、下江 晴治、 小山 紳一郎、大川 寿之、臼井 高之、吉川 宗孝、藤尾 直史 (欠席委員)</p> <p>なし (事務局等)</p> <p>内藤 喜之、野崎 奈由子、清水 大空、宮方 香映</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・【資料1】 ささえ愛♡ちがさき通信 ・【資料2】 住民主体の事業とは～SCと協議体の役割とは～ ・【資料3】 ミニデイ・サロン一覧 ・(参考資料) 茅ヶ崎市生活支援体制整備事業実施要綱
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	—
傍聴者数 (公開した場合のみ)	0人

1 開会

【茅ヶ崎市：内藤喜之 理事(兼)福祉部長】

本日は、ご多様のところ令和3年度茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1回第1層協議体にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、会議開催にあたり、構成員の皆様

におかれましては、感染予防対策にご協力をいただき、重ねてお礼申し上げます。

昨年度から続くコロナ禍において、構成員の皆様の地域活動についても中止や延期を余儀なくされ、感染予防策を徹底しながらの活動に大変苦勞されていると聞いております。

9月に緊急事態宣言が解除され、少しずつではありますが、活動再開に向けた動きもでてきたところであります。

さて、本市の高齢者人口につきましては、年々増加しており、10月1日現在の65歳以上の高齢化率は26.57%となっております。令和2年度は26.46%であり一年の間に0.11ポイント上昇し、統計資料によりますと500名以上増加しました。

困りごとを抱えている高齢者を地域でどのように支えていくか、これまで以上に議論し、コロナ禍においても工夫してできる取組をはじめとした様々な地域の支え合いの取組を行っていく必要があると考えております。

構成員の皆様からは、地域の活動状況や課題をお伺いするとともに、課題解決や地域にお住いの高齢者の方の暮らしの改善に向けたご意見を賜れば幸いです。

また、本日は、神奈川県生活支援アドバイザーの鶴山様をお招きし、「住民主体の事業とは～SCと協議体の役割とは～」と題して、地域住民が主体となった活動の充実を図るための基本的考え方についてご講演いただきますが、交通事情により本日はプログラムを入れ替えて行うこととなります。今後の皆様の活動の参考としていただければ幸いです。限られた時間ではありますが、どうぞよろしく願いいたします。

第2部

(1) 茅ヶ崎市の生活支援体制整備事業について（資料1）

説明 【第1層地域支え合い推進員：吉川課長補佐】

生活支援体制整備事業は、介護保険法に規定されている地域支援事業の一つです。

地域支援事業には、認知症施策に関することや地域包括支援センターに関することなどがあり、そうした事業と並び、生活支援体制整備事業も大切な柱の一つと位置付けられています。

資料1をご覧ください。

事業の目的は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることが出来るよう、高齢者を地域で支え合う体制づくりを推進すること目指しています。

茅ヶ崎市では、平成30年度より本格的に生活支援体制整備事業に取り組んでまいりました。

この事業の名称についても、本市では「ささえ愛♡ちがさき」という愛称をつけ、皆様により身近に感じていただけるよう工夫を凝らしています。

資料1は、リーフレット「ささえ愛♡ちがさき通信」として事業の周知等のため発行しております。表紙に事業の目的を記載しています。

また、生活支援体制整備事業を実施する理由として、少子高齢化に伴い、地域で高齢者等を支える体制を充実していく必要があること、そして、高齢者の方々が、地域活動への参加や社会との接点を持ち続けることで、ご自身の生活の張りや心身の健康に繋げていく必要があります。

これらを踏まえ、本市では、支え合いの仕組みづくりを推進ため、地域支え合い推進員を配置しています。

この地域支え合い推進員ですが、市内13地区については、茅ヶ崎市社会福祉協議会の地区担当の職員が推進員の立場としても活動しています。また、茅ヶ崎市全体に関する事は、私を含め市の高齢福祉介護課職員4名が推進員を務めています。

「地域支え合い推進員」の活動実績の一つとして、平成30年に高齢者の困りごとを把握し、地域に暮らす高齢者の支援を考えるため、「外出に関するアンケート調査」を実施しました。調査結果については、13地区の地区ごとの考察を加えた形で報告書としてまとめています。

この報告書は、市全体の結果をまとめた市域版と13地区ごとに集計、考察を加えた地区版の2本立てとなっており、地域の課題など何かを考えるためのきっかけとして活用いただくものです。大切なのは、皆様が日々の活動で感じている地区の現状や高齢者の困り事などを共有し、その解決方法を一緒に考え、そこで必要な資源を充実させたり、場合によっては新たに作ったりする、そうした一連の活動が、この事業の一番のポイントとなります。

なお、本日の会議「第1層協議体」は、この会議で何かを決定する場ではなく、本日お集まりの皆様が、日頃感じていらっしゃる地域の課題だけでなく、逆に、アイデアとして、「こういうことをやってみたい」などご意見・ご感想として、この場で皆様と共有、意見交換を行い、それぞれの団体や地区の活動に繋げていただければ幸いです。

また、活動の中で、地域支え合い推進員（市職員や市社協の地区担当の職員）は、会議等へ参加させていただき、一緒に取組を進めていきたいと考えています。

よろしくをお願いします。

① コロナ禍におけるミニデイ・サロンの活動状況について（報告）（資料3）

説明【第2層地域支え合い推進員 藤尾主査】

「コロナ禍におけるミニデイ・サロンの活動状況等」について説明します。

資料3には、全部で110のサロンが掲載されていますが、掲載に関しては市社会福祉協議会で調査をし、公表の承諾を得たサロンのみを掲載してします。実際は150位のサロンがあります。ミニデイ・サロンの現状についてですが、昨年から新型コロナウイルス感染症の影響で、居場所の開催に関しては全国的に厳しい状況となっています。この一覧表を作成するにあたり、市社会福祉協議会では5月頃にアンケートという形で各サロンに対して活動内容の確認をしました。その中で、「現在の活動状況や今度の活動予定について知らせしてほしい。」、「活動の際に工夫していることや新しく始めた事があれば教えてほしい。」等の意見をいただいております。

このほか、第2層の地域支え合い推進員として、各地区社協が主催しているサロンに足を運び、職員間で情報共有しており、その内容を報告します。

全般的な傾向として、屋外で行っていたラジオ体操等はコロナ禍でも継続して行っているところが多い状況ですが、一方で、屋内で実施しているサロンに関しては、中止や規模縮小している状況です。その中で特徴的なのは、コロナ禍においても、子ども関係では開催回数を増加したサロンがあります。活動再開に向けた意見としては、「ワクチン接種の完了を目途に再開したい。」、「秋頃に再開したい。」という意見がありました。公共施設や自治会館での開催が多く、緊急事態宣言やまん延防止等が出ている中で、施設の利用中止という場所の問題、人数制限の問題があり、本来実施しようとしているサロンの目的が達成しにくいことから、開催を中止したところもありました。

また、実際、サロンを閉めたところがあり、「コロナ禍でなかなか開催できない。」、「運営者自体が高齢化しており、引き継いでくれるサロンの担い手が不足している。」などという理由から閉鎖したという話を聞きました。（昨年度4カ所、今年度2カ所）

9月、10月に関しては、ワクチン接種も進み、緊急事態宣言も解除された中、私達が地区に足を運び聴き取った限りでは、11月から工夫をしながらサロンを開催していこうというお話しを聞いています。今まで継続して開催しているところも含めて、マスクの着用や消毒等一般的な感染対策、今まで食事会を行っていたサロンも飲食をせず集まるだけにして、カラオケや歌を歌う事はやめるなど、今まで屋内で行っていたことを、青空サロンという形で屋外でという話しも聞いています。

第2層地域支え合い推進員の私から皆さんにお願いしたいところは、会場の問題等で各団体の方で相談を受けたら柔軟に対応していただけたらと思います。今まで参加していた方が、コロナ禍を経て足腰が弱くなった、という話しも聞いております。コロナ禍ではありますが、サロンの意義が強くなっていると思いますので、ご協力を願います。

以上で報告を終わります。

② 茅ヶ崎市地域包括ケア支援システムについて

説明【第1層地域支え合い推進員：吉川課長補佐】

本市では、令和2年度より、介護サービスや地域のサロンなど様々な社会資源の情報を誰でもインターネットやスマートフォンで検索して見ることや、各地区の情報を地図上に表示して把握することができる「地域包括ケア支援システム」を導入しております。

このシステムは、公益社団法人かながわ福祉サービス振興会が運営している「かながわ福祉情報コミュニティ」のサービスの1つであり、県内では、横浜市、川崎市、相模原市など9市1町が導入しております。

(スクリーン画面をご覧ください。) 茅ヶ崎市の公式ホームページでございます。

茅ヶ崎市の公式ホームページのトップページから「シニアの情報をギュッと集めました」というページへ行きますと、「地域包括ケア支援システム」のページへリンクを貼っています。もちろん、一般の検索サイトから直接検索してもこのページに行くことは可能です。

地域包括ケア支援システムには、「種別から探す」「地図から探す」という2つの機能から必要な情報を検索できるようになっております。

令和2年度の導入時より、少しずつメニューを追加しており、「相談窓口」「地域の居場所」「新型コロナウイルスに関する情報」「ボランティア募集に関する情報」など、現在は、11のメニューを掲載しております。

「地域の居場所」を見てみますと、地区別にサロン情報が掲載されており、利用者の方が気になったサロンの情報を確認できるようになっております。

ミニデイ・サロンなどの社会資源の情報については、これまでも紙ベースで、適時、提供をしておりましたが、このシステムにより、インターネット上で、誰でも情報を入手できるようになりました。

また、「地図から探す」という機能では、「地域の居場所」や「相談窓口」など、利用者が必要な情報を選択し、検索することで、地図上のどの場所にどのような介護事業所や介護サービスの情報等があるのか、視覚的に把握することができるようになっております。

このシステムですが、10月のアクセス数(純粹にページが閲覧された回数)は、3,000件を超えており、毎月平均しても3,000件前後と安定した数のアクセスが確認できております。また、1か月あたりのユーザー数(重複分を除いた1ヶ月に訪れた人数)も900人程度と毎月増加傾向にあります。よく閲覧されているページとしましては、「地域の居場所」「相談窓口」「居宅介護支援事業所」が上位を占めている状況です。

より新しい情報を提供するため、今年度上半期では、「ミニデイ・サロン一覧」及び「高齢者のための優待サービス事業」の更新作業を行いました。

今後は、より多くの方にご利用いただけるよう、システムの充実や改善に向けた検討を進めてまいります。そこで、構成員の皆様の方から、さらなるシステム充実に向け、利用

する方が知りたいと思う情報という視点で、追加メニューのご提案をいただければと思っております。

ご意見等ある方がいらっしゃいましたら、このあとの次第にあります「意見交換」の場において、併せてお話をいただければと思います。

今後もこのシステムをより充実したものとするため、引き続き、皆様にご協力を賜れば幸いです。

説明は以上です。

(2) 意見交換

主に次の2点について構成員から意見をいただいた。

(団体等の活動状況)

(茅ヶ崎市地域包括ケア支援システムの充実に向けたご意見)

【茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会：松井 新吾】

茅ヶ崎市地域包括ケア支援システムについて、これならば高齢者の方も利用できると思います。項目はあまり増やし過ぎないように、今のままでも十分だと思います。

茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会としての活動は、コロナ禍の状況で保健所とどの様に繋がっているかということを中心に課題としてきました。休業する場合はスムーズにできましたが、事業を再開する際に皆さん苦戦しており、無症状の職員に対する検査をどうするかを常に課題としてきました。

現在は市内の陽性者数は減少していますが、介護事業者は緊張感を持った状況が続いております。サービス利用が不自由になっているところもありますが、引き続きご理解ご協力をお願いします。

【茅ヶ崎介護サービス事業者連絡協議会：平本 哲也】

市内のケアマネジャーの集まりで活動を行っておりますが、茅ヶ崎市内での感染者発生情報を日々キャッチすることで、利用者やご家族、関係事業者団体にご迷惑が掛からないよう対応をしてきました。その中で大きく事業閉鎖するところもなく、安定して茅ヶ崎市の介護事業所は運営できているのかなと感じています。

その間を取りもつケアマネジャーは市内150名程が活動しております。現在、課題に感じている事として、コロナの影響ではないかと思いますが、ケアマネジャーとして働く方が少なくなっている現状であり、先程も高齢化率のお話もありましたが、対応できる人員が少なくなっていくのかという懸念があります。

また、松林ケアセンターで仕事をしながら、認知症カフェ等の様々な取り組みも行って

いますが、地域包括ケア支援システムの中にどのようなタイミングで反映していくのか、また新しい活動の取組も少し増えてきているので、そうした情報を随時バージョンアップし、情報をタイムリーにキャッチできればよいかと思えます。

【茅ヶ崎市介護予防ボランティア：菅野 京子】

私の活動は、高齢者支援リーダー、主に65歳以上の方を対象に行っている「転倒予防教室」、月1回中央公園（第1カッターきいろ公園）で行う「ちがさき体操」、65歳以上で長時間の運動が困難な方が月2回、懐かしい童話を歌いながら有酸素運動を行う「歌体操」を行っています。そして、「フレイル予防教室」は65歳以上の方が年2回フレイル予防について学び、現在の健康状態を知ること、今後の介護予防に役立てています。

これらの活動全てがコロナ禍により、2020年3月より中止となりました。2020年度はコロナ禍が収束しないため、今まで参加していた方や、ボランティアの方で再開を望んでいましたが、活動できませんでした。

ボランティアに関しては、少人数で研修会が行われ、YouTubeによる体操の動画配信やDVDの貸出、高齢福祉介護課が介護予防通信を発行し、介護予防が自宅でも行えるように工夫してくれました。

「転倒予防教室」については、今年5月より再開しております。感染拡大防止のため各会場で定員を決めて、定員人数の多い会場に限り、1会場3名の高齢者リーダーが参加しております。中央公園（第1カッターきいろ公園）で月1回実施していました。

「みんなでちがさき体操」については、ちがさき体操に加え、輪っか体操、呼吸筋体操を追加し、「みんなで公園体操」と名称を変え、9月14日よりスタートする予定でしたが、感染者数が減らず中止となりました。しかし、広報ちがさき9月1日号に掲載されたことにより、100名を超える方が公園に集まりました。コロナ禍で大勢の方が身体の衰えを感じていたということがわかりました。10月より45分間、雨天でない限り自由参加で実施しています。

「フレイル予防教室」については、感染予防のため、全てのフレイルチェックが実施出来ないため、フレイル予防の講話やちがさき体操、お口体操、フレイルの兆候があるかの11項目の質問項目と握力検査、立ち上がりのチェック等を、10月15日から松浪コミュニティセンターにて再開しております。11月から来年度2月までの月1回開催予定です。フレイルの結果は、本人の許可を得て、各地域包括支援センターへ報告して繋いでいます。

歌体操に関しては、市内19か所で実施しておりますが、9月末まで中止となり、10月より再開となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響で高齢者の体力、気力が低下しています。市が行った

健康アンケートの結果でも半数の方がフレイルの傾向であることが分かりました。また、高齢者リーダーも高齢化の傾向にあるため、これから感染予防に気を配りながら活動していきたいと思います。

地域包括ケア支援システムについて、スマホでもとても見やすいのでボランティアや高齢者の方々に広めていきたいと思います。

【茅ヶ崎市社会福祉協議会：海野 誠】

4月に着任しました。最近の市社会福祉協議会の状況ですが、10月から各担当業務を見直し、新たなスタートを切らせていただきました。これは、市が、来年度から総合相談担当を設置すること、成年後見制度の普及促進するための中核機関設置の検討することなどについて、市社会福祉協議会としても対応していくため、前倒して始めたものです。

社協の担当者は、より地域に関わる時間を確保し、地域支援を強化するための体制づくりをしながら、生活支援体制整備事業に対しても、その中で取組んでいきたいと思っています。

コロナ禍で社会福祉協議会の中でも会議や講習会等を全て書面会議やZOOMで行っております。イベント等も先送り等の措置がされています。緊急事態宣言が解除された中で、対面会議が徐々に増え、実際に顔を合わせて行う会議はよいと感じています。

また、コロナ禍で生活困窮になっている方々が大勢いらっしゃいます。職を追われたりする方が多く、社会福祉協議会での貸付けも11月末まで延長の申請を受け付けており、毎日多くの方がいらっしゃいます。

また、コロナ禍で会議の開催方法の変更や、人気の高いボランティア大学も対面からYouTubeでの配信をしています。小中学校等の福祉教育も徐々に依頼が戻りつつあります。

市社会福祉協議会では、情報発信のツールとしてLINEを始めました。身近な状況を配信していますので、是非、社会福祉協議会とお友達になっていただけたらありがたいです。

【茅ヶ崎市シルバー人材センター：小澤 伸一】

当センターでは、社会参加意欲のある健康な高齢者のために、就業等の活動を提供することで生きがいの充実、福祉の増進を図るとともに、高齢者の能力を活かした活力ある地域づくりに寄与することを目的として事業を実施しております。

健康寿命が延びる中、高齢者が地域で働ける場や社会の回復ができるため、地域における高齢者のニーズに対応していくことが求められております。当センターは社会活動として、中央公園（第一カッターきいろ公園）の北側歩道部分の清掃活動を実施していましたが、新型コロナウイルスまん延の影響で中止となっています。現在は、コロナ感染者の数をみると収束に向かっている状況なので、今月27日には中央公園（第一カッターきいろ

公園) 北側歩道部分の清掃活動を実施する予定です。

また、地域包括ケア支援システムについては、高齢者の生活支援について、皆さんと共有できればと思います。

【茅ヶ崎市地域包括支援センター管理責任者会：田島 一紀】

小和田地区地域包括支援センター青空について、昨年11月に市営小和田住宅外複合施設内に事務所を移転しました。

今年に入り新型コロナウイルス感染状況も変化しており、事例検討会や地域ケア会議、家族介護教室等、本来、地域包括支援センターが行う事業が徐々に再開できています。

地域包括ケア支援システムについては、サロン活動についてもすぐに確認が取れるということで、外出することが困難な高齢者が、足腰が弱くなったという話を聞く中で、サロン活動の情報はとても重要なことだと思いますので、このシステムを紹介することは有効な方法になるのではと思います。

【茅ヶ崎市地域包括支援センター管理責任者会：森 森恵】

昨年度から始まった新型コロナウイルスの影響で、松浪コミュニティセンターも長い期間閉館しておりましたが、徐々に活気が戻りつつあります。

宣伝になりますが、松浪地区地域包括支援センターさざなみでは、地域の情報をまとめた「趣味の冊子」を昨年度作成しました。地区サロンの状況も同じように掲載していますので、興味がある方は、地域包括支援センターさざなみへお越しいただきご覧ください。

【茅ヶ崎市地区社会福祉協議会連絡協議会：坂井 修一】

第1層、第2層協議体の会合の意味が掴めず一生懸命勉強してまいりました。市内には地区社会福祉協議会が13か所ありまして、会長が集まり意見交換を行っています。私自身は、松浪地区社会福祉協議会の会長をしております。

色々考えてみると、ボランティアセンターは最先端のことを行っており、コロナの影響もありますが、以前から宣伝が行き渡っていないのか利用者が少ない状況です。一生懸命やっているのに利用者が少ないというもどかしさを感じます。また、宣伝が行き渡った場合、ボランティアが足りなくなる可能性があり、それも心配しています。

例えば、ミニデイ・サロンも沢山ありますが、それぞれ6～7人の参加で、高齢者が多いのにもかかわらず、何故情報が行き渡らないのか、私たち的高齢者に対する配慮が足りないのではと反省しています。

【茅ヶ崎市地区ボランティアセンター連絡会：有元 佳子】

ボランティアセンターのサロン活動は徐々に再開していますが、会場が狭いので11月も人数制限をして行いました。お菓子、お茶を用意して久しぶりに会話が弾みましたが、それだけでは楽しみがないので簡単なゲームをして楽しみました。ボランティアセンターのサロンは、懐かしい歌を10曲位歌うのが特徴で、その歌が好きで皆が集まって来ますが、歌うことができないのが残念です。早くコロナが終息するのを待っています。

ボランティアセンターでは、コーディネーター配置事業が平成22年から開始し、今も続いております。ネットワーク会議を通じて、高齢者の色々な問題、悩みを共有しています。高齢者が閉じこもり外に出ないと、足腰も弱り、認知症にもなります。家に閉じこもってしまった高齢者の家の庭の草むしりを、社会福祉協議会と一緒にしています。

湘北地区は高齢化率が非常に高く、特に松風台の高齢化率は49%です。会う人は皆高齢者です。また、地域の福祉団体とZOOM会議を行い、困っていることや楽しいことを話し合っています。9月に1回行い、11月18日にも行う予定です。

野外活動では、今年度5回目になりますが「セカンドライフを楽しむ会」を甘沼樹木センターで行いました。そこでネイチャーゲームやラジオ体操をしてとても有意義な時間でした。

また、地域包括支援センターあかねより、共同して事業をやらないかと声掛けがあり、来年の3月頃に事業を実施する予定です。現在は感染者も少なくなっているため、少しずつ動きが取れるようになってきました。また、男性のサポーターが少ないので、外での作業が難しくなっていますが、頑張ろうと思っています。

【茅ヶ崎市福祉相談室連絡会議：土屋 和美】

福祉相談室は地域包括支援センター13地区の中に併設されております。地域包括支援センターの中にあるので高齢者からの相談が多くありますが、福祉相談室は高齢者に限らず、障害のある方、お子様、生活困窮の方、地域の住民のからの相談も多くあります。

【茅ヶ崎市地区ボランティア連絡会：渡邊 多茂夫】

地区ボランティア連絡会は昨年で40周年を迎えました。参加団体は13団体で、所属している方は500人程です。手話サークルの聴覚障がい者に対するボランティア関係が4団体、視覚障がい者（点訳・点字）が4団体、介護関係が4団体、絵本のグループが1団体です。30周年記念の記念誌を作成した時は、15団体で700人程いましたが、この10年の間にかなりの数の人が減ってしまいました。

昨年と今年で、社会福祉協議会と協催してボランティア大学を中止しています。「ボランティア祭り」という福祉バザーを行っていましたが、昨年、今年と中止になりました。

ボランティア大学で、基礎講座を学んだ方に参加していただく流れで進めていたので、2年間実施できなかったことは、高齢化を含めメンバーが減少の一途を辿っています。今年も実施できず、市民の皆さんに声掛けができなくなる不安もあり、社会福祉協議会の協力のもと、社会福祉協議会のホームページからボランティア大学の授業を見ることができます。通常は5月から7週かけて午前中ボランティア大学を開催していましたが、YouTubeでは11月1日から1回目の講演、「ボランティアに対する心構え」について1時間配信されています。103人の方のアクセスがありました。内輪の方もいるとは思いますが、外から見てくれている方もいるのだと思いました。今年5月にボランティア大学の募集をしたところ、50人程の参加希望がありましたが実施できませんでした。この機会にご覧いただき12月までにアンケートを出していただければ、修了証を渡します。例年、ボランティア大学修了者の15人程度が、ボランティア連絡会の活動に参加していますので、一人でも多くの方に見てもらい、今後も継続していきたいです。私は、録音ボランティアに所属していますが、対面朗読、声の情報提供で1人5分程度の話をCDにして視覚障がい者の方に配っています。

【茅ヶ崎市まちぢから協議会連絡会：三觜 健一】

まちぢから協議会は、地区13地域で分かれています。その中で12地区が出来上がっており、南湖地区のまちぢから協議会に参加しています。まちぢから協議会をご存じのように地域の各団体が集まって構成されており、その中に社会福祉協議会、青少年育成推進協議会、ボランティアセンター、民生委員児童委員等が入っていますが、トータル的に各団体から課題を提示してもらい、課題解決、調整、将来的に各団体がどのようにしたらよいか、というような立ち位置で活動しています。

個別の案件には直接関わることは少ないですが、サロン等を見ているとコロナ禍でも、ボランティアセンター、民生委員、地域包括支援センターの主任ケアマネジャーを含めて、このような状況の中でも頑張っている努力されています。

コロナ禍の中は、コミュニティセンターがオープンできなかったのも、サロン等は夏までは実施できませんでしたが、11月からは開催しています。

課題は、民生委員やボランティアセンター、高齢者や障がい者を含めた方々との情報共有ができないことです。個人情報絡んできますが、会議の場所で話せること、話せないことが出てきますが、そのあたりの調整をどのように上手く行っていくかが課題になっています。

【茅ヶ崎市民生委員児童委員協議会：澄川 篤】

13地区民生委員の会長が児童委員協議会を構成しています。地区会長による常任理事会から参りました。私は湘北地区民生委員の会長をしております。

ミニデイ・サロン活動に関して気掛かりなことをお話しします。地区の民生委員のほとんどがミニデイ・サロンに関わりを持っています。ところが、現在の民生委員の任期3年のうち2年が経過していますが、その間ほとんどが新しい民生委員はミニデイ・サロンに関わりを持っていないので、皆さんの活動を実際に見ながら、活動を行っていくことができない状況です。後ろ姿から学びながら活動を継続していく形が難しい状況です。民生委員の中で再任される方は大丈夫ですが、新しい民生委員の後継者が継続していく上では、2年間の空白が大きく影響していると思います。我々の後継者養成の課題になるかと思えます。

【茅ヶ崎市老人クラブ連合会：下江 晴治】

老人クラブ連合会の目的は、健康づくり、生きがい事業、友愛活動、社会奉仕活動等を行っておりますが、コロナの影響で開催できませんでした。10月頃から少しずつ活動を始め、11月4日に30名くらいの会員と市の関係者が集まり、文化会館の周りで植栽事業を行いました。花壇の周りにパンジーが植えられております。文化会館前の花壇にも約180本のパンジーを植えるなど、久しぶりに活動を始めました。

コロナの影響で1年程、事業が実施できず毎月の役員会も延期という状況で、各地区の会長さんと連絡も取れない、事業も開催できない状況でしたので、これから実施していきたいと思えます。延期していた作品展を来年2月に、社会福祉協議会ビルの3階で行う予定です。また、グランドゴルフ大会も2月に行う予定で、これから徐々に再開していきたいと思えます。

本日初めて参加させていただき、皆さん方のご協力により、高齢者の生活等が成り立っていることを私自身、身をもって感じました。今まで関心は多少ありましたが、今後は大いに関心を持ち活動させていただきたいです。

また、今年会長になり「できない」ということよりは、「どうしたらできるか」ということを基本理念として前向きに進んでいきたいと思えます。

【特定非営利活動法人NPOサポートちがさき：小山 紳一郎】

NPOサポートちがさきは、自主事業と指定管理事業に分かれます。自主事業では、市役所の関係部署、当該自治会と連携しながら湘南地区において「お出かけワゴン」という輸送サービスの事業を行っております。

指定管理事業では、イオンの近くに、市民活動サポートセンターという公設民営型の公

共施設があります。そちらの方を指定管理者として運営し、私自身は地域の居場所づくり交流会の事業を担当して、年1回交流会を企画しています。年に1回では少ないのではないかという意見があり、現在はFacebookにコミュニティを立ち上げ、3日に1回ほど居場所づくりに関する情報交流を行っています。また、SDGsカフェという事業を今年度から立ち上げました。福祉関係者だけでなく、アート、農業等の異分野越境型の関係を作ること、人と人のネットワークづくりの場としてカフェを活用していただければと思います。

【茅ヶ崎市福祉部福祉政策課長：大川 寿之】

既存の制度では対応できない複合課題や、狭間の課題を抱えた世代の支援を強化するために、先程社協からお話ありましたが、令和4年度に福祉政策課内に、総合相談担当を設置する予定ですので、引き続き、皆様のご協力をお願いします。

【茅ヶ崎市福祉部高齢福祉介護課介護保険担当課長：白井 高之】

コロナ禍の中、皆さん悩みながら、苦勞しながら活動を続けていただいたと改めて感じるところです。徐々に活動を再開しているという言葉が出ておりました。吉川課長補佐からも説明がありましたが、再開情報等をタイムリーに情報発信していただけたらと思いますので、皆様から色々と情報をいただければと思います。

また、趣味の冊子、お出かけワゴンの話がありましたが、この会議の趣旨として、良い活動があれば横の繋がりで、他の地区や団体にも広げていきたいというこの会議の趣旨がございます。この会議に限らず情報提供をいただければ、それを参考にして活動に繋げていきたいと思います。

第1部

(1) 講演「住民主体の事業とは～SCと協議体の役割とは～」(資料2)

講師 神奈川県 生活支援アドバイザー

公益財団法人さわやか福祉財団:鶴山 芳子氏

資料2に沿って講演

(2) 質疑応答

質問：第1層協議体及び第2層協議体の連携について教えてほしい。

回答：地域の実情によりますが、第2層が中心となり働きかけています。掘り起こしているニーズ、例えば居場所を作ることにより解決できる、茅ヶ崎市ならば13エリアの1つのニーズとして解決できるならばよいが、広い範囲の移動支援になると1つのエリアよりも中心地に繋がりあるエリアとか、1つのエリアでは解決

できないので、第1層と連携しながら解決していく。

また、住民では解決できない場合は、行政に提案して、行政がどうするか判断してもらう等の連携の方法もあります。

いずれにしても、地域の実情に応じて連携をしていくこととなります。

質問：茅ヶ崎市の場合、市役所（第1層）と市社会福祉協議会（第2層）は接点があるが、私たち構成員は年に数回しか会わないので、第2層の状況をつぶさに把握する機会がない。他の自治体ではこの状況どの様に対応しているのか

回答：山梨県南アルプス市（7万人位の町）は、2層が市社協で、16地区に社協職員が事務局として入っています。そのメンバーと1層2層のコーディネーター、行政担当、社協の担当が月1回連絡会を行い情報共有する仕組みとなります。住民が主体なので、社協も行政もバックアップという形で支援しています。また、2層のコーディネーターが参画しながら共有しているようなやり方をしている所があります。

（3）その他

【事務局】

次回の会議開催について、2月頃を予定しています。開催方法が決まり次第、ご連絡いたします。

3 閉会

【茅ヶ崎市福祉部高齢福祉介護課介護保険担当課長：白井 高之】

先ほどのご質問でありました協議体の体制については、この事業立ち上げの時に事務局でも検討しました。もともと茅ヶ崎市には地域の課題等を話し合う会議体があります。そのため、生活支援体制整備事業のために新たに会議体を設置するのではなく、既存の会議体を最大限活用していこうとのことで現在の体制となっています。

本日は、各団体の近況やご意見をいただきましたので参考にし、この事業をさらによりものにしていきたいと思えます。

以上をもちまして、令和3年度茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1回第1層協議体を終了いたします。本日は、皆様本当にありがとうございました。

（以上）